

中学校 外国語科①



1 学習評価で大切にしたいこと

(1) 目標・指導・評価の一体化

ゴール（身に付けさせたい資質・能力）を子供と共有しましょう。達成した姿を具体化して目標を設定し、その力を育成するために言語活動を通して指導を行い、評価します。

(2) 多面的・多角的な評価

ペーパーテスト（定期考査や単元テスト、言語活動の際に用いるワークシート等）や、パフォーマンステスト（スピーチやインタビュー、ディスカッション、ライティング等）、活動の観察等により評価を行います。

2 評価の観点及びその趣旨

外国語科における「内容のまとまり」は、5つの領域（聞く、読む、話す〔やり取り・発表〕、書く）であり、領域別に3観点で評価します。「教科目標」「内容のまとまりごとの評価規準」等に基づき、各学校が子供の実態等に応じて「学年ごとの目標」を設定した上で、「単元ごとの評価規準」を作成します。下記に示す評価の「観点及び趣旨」も合わせて確認します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	- 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解している。 - 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や概念・要点などを理解したり、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や文を用いて表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

3 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

*「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（中学校 外国語P80）より抜粋

評価時期の考え方として「学びに向かう力、人間性等」は、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」と同様、時間をかけて育まれるものです。したがって「主体的に学習に取り組む態度」を評価する時期は、単元終末や学期末等で行うパフォーマンステスト等が基本となります。したがって、単元の1時間目に当該単元終末の言語活動をイメージさせるなどにより単元の学習に対する意欲化を図るといった移動を行い、当該指導により意欲が高まったからといって「主体的に学習に取り組む態度」が育まれたと評価することは適切ではありません。「主体的に学習に取り組む態度」は、言語活動に取り組む中で、「知識及び技能」並びに「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を一体的に育成する過程を通して育成されることに鑑み、一定の学習を経たのち（単元終末や学期末等）に評価するものであることに十分留意する必要があります。

■ 全学年共通 【単元名】…全単元に共通 【内容のまとまり】…全領域に共通 ※評価の基本的な考え方は右頁5「3 観念のポイント（3）」を参照

■ 「自己調整」を図っていると考えられる生徒の姿の例

聞くこと	- 聞き取れなかった単語を聞こえてきたとおりに自分で発音している。 - 相手が何を伝えようとしているか、話し手を意識して予想しながら聞いている。 - 分からない時には聞き返している。
読むこと	- 途中まで止まらずに最後まで読み進めている。 - 音読することで文字を音声化している（※音声化することで意味を推察することができる場合があるため） - 書き手が意識しながら分かった語句から推察して読もうとしている。
話すこと（やり取り）	- 自分が理解したことを確認している。 - 自分が話したことが伝わったかを確認している。 - 聞き手を意識して表現を変えるなど言い直しながら伝え合っている。
話すこと（発表）	- 聞き手を意識して、話す内容や話し方を工夫している。 - 発表後には、友達に感想を聞いている。 - 自分の発表をタブレットなどで録画し、改善点を見付けている。
書くこと	- 読み手を意識するために、書いたら、友達に読んでもらい、分かりにくい点がないかを確認している。 - 最後まで書き、その後で教科書や辞書を使いながら、書き直すようにしている。 - 書き始める前に、書きたい内容をまとまりごとに分けてメモに書き出している。

4 評価の留意点

知識・技能

英語の特徴やきまりに関する事項を理解しているかを「知識」として評価します。実際のコミュニケーションにおいて「知識」を活用して、日常的な話題や社会的な話題について、自分の考え等を簡単な語句や文を用いて表現できる力を身に付けているかを「技能」として評価します。

思考・判断・表現

コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、話したり、書いたり、表現したり、伝え合ったりしている状況や、話されたり、書かれたりする文章等から聞いたり、読んだりして、必要な情報や概要、要点等を捉えている状況を評価します。

主体的に学習に取り組む態度

右頁6「5 領域の目標」にあるように「～しようとしている」状況を評価します。また、資質・能力を子供と共通理解し、言語活動の振り返りで、自らの成果や課題、次への目標を明らかにさせ、その取組状況を継続的に見取することも大切です。

（※評価の事例については国研資料「『指導と評価の一体化』のための学習評価」中学校 外国語 第3編(P.35～)を御参照ください。）

中学校 外国語科②



5 3 観点のポイント

*『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料
(中学校 外国語 P30)』より抜粋

(1) 「知識・技能」のポイント

- ①「知識」…中学校学習指導要領(外国語)「2内容」の〔知識及び技能〕における「(1)英語の特徴やきまりに関する事項」を指しており、それらの事項を理解している状況の評価します。
- ②「技能」…「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」(以下「5領域」)は、実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いて話したり書いたりして表現したり伝え合ったりする技能を身に付けている状況の評価します。なお、指導する単元で扱う言語材料が提示された状況で、それを使って事実や自分の考え、気持ちなどを話したり書いたりすることができるか否かを評価するのではなく、使用する言語材料の提示がない状況においても、それらを用いて事実や自分の考えなどを話したり書いたりすることができる技能を身に付けているか否かについて評価します。

(2) 「思考・判断・表現」のポイント

- ①5領域は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話したり書いたりして表現したり伝え合ったりしている状況の評価します。
- ②「聞くこと」「読むこと」は、日常的话题や社会的な話題について話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて必要な情報や概要、要点などを捉えている状況の評価します。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ①外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている状況の評価します。
- ②具体的には、5領域の日常的话题や社会的な話題などについて、目的や場面、状況などに応じて、事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いて、話したり書いたりして表現したり伝え合ったりしようとしている状況の評価します。
- ③「聞くこと」「読むこと」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題などについて話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、必要な情報や概要、要点を捉えようとしている状況の評価します。
- ④上記の側面と併せて、言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的に捉えている状況についても、特定の領域・単元だけではなく、年間を通じて評価します。

6 5 領域の目標

外国語科では、学習指導要領において言語「英語」の目標を5つの領域別で示しており、学年ごとの目標を示していません。そこで「指導計画の作成及び内容の取扱い」において、各学校において学年ごとの目標を設定することとしています。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	【知識】英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 【技能】実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、はっきりと話された文章等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題についてはっきりと話される文章を聞いて、必要な情報や概要、要点を捉えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとしている。
読むこと	【知識】英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 【技能】実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、書かれた短い文章等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について書かれた短い文章を読んで、必要な情報や概要、要点を捉えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、主体的に英語で書かれたことを読もうとしている。
話すこと (やり取り)	【知識】英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 【技能】実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝え合う技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて伝え合おうとしている。
話すこと (発表)	【知識】英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 【技能】実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話す技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話している。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。
書くこと	【知識】英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 【技能】実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、またはそれらを正確に用いて書く技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて書いている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて書こうとしている。

7 「話すこと〔やり取り〕」の評価基準の設定例

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準 (設定例)	【知識】 助動詞canや疑問詞whenを用いた文の構造を理解している。 言語材料 【技能】 町や地域について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、助動詞canや疑問詞whenなどの簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。 話題 内容 言語材料	外国の人に「行ってみたい」と思ってもらえるように、町や地域のことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。 目的等 話題 内容	外国の人に「行ってみたい」と思ってもらえるように、町や地域のことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。 目的等 話題 内容